

小平市教育委員会会議録

——8月臨時会——

平成26年8月7日（木）

開催日時 平成26年8月7日(木) 午後2時00分～午後5時11分  
開催場所 市役所 大会議室  
出席委員 森井良子 委員長  
山田大輔 委員長職務代理者  
高槻成紀 委員  
三町章 委員  
関口徹夫 教育長  
説明のための出席者 有川知樹 教育部長  
高橋亨 教育部理事兼指導課長  
松原悦子 教育部理事(生涯学習・体育・図書館)  
滝澤文夫 教育庶務課長  
森田恒明 指導課長補佐  
小林邦子 教育部参事  
志村安 指導主事  
荒木忍 指導主事  
横山明 指導主事  
書記 宮崎淳 教育庶務課長補佐、根岸玄 教育庶務課主事  
傍聴者 15名

午後2時00分 開会

(開会宣言)

○森井委員長

ただいまから、教育委員会8月臨時会を開催いたします。

本日は、大勢の傍聴者の方がいらっしゃっています。入口でお渡しいたしました傍聴券の裏面には注意事項が記入してありますので、ご了解の上、傍聴中は静粛を旨とし、円滑な会議の進行にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

(署名委員)

○森井委員長

それでははじめに、会議録署名委員の指名を行います。本日の会議録署名委員でございますが、山田委員長職務代理者及び私、森井でございます。

(協議事項)

## ○森井委員長

それでは協議事項を行います。

協議事項、平成27年度から平成30年度使用小学校教科用図書についてを議題といたします。

初めに、本年度の小学校教科用図書の採択について、これまでの経緯を事務局からご報告いただきます。

## ○高橋教育部理事

小学校教科用図書の採択について、これまでの経緯をご報告いたします。

本年4月30日の教育委員会定例会におきまして、平成27年度使用小学校教科用図書採択方針、平成26年度小平市立小学校教科用図書採択要領及び同細則を定め、これに基づきまして、5月15日に学識経験者、保護者代表、小学校長、副校長で構成される小平市立小学校教科用図書審議委員会及び同審議委員会の下部組織であります教科用図書調査部会を設置し、委員の委嘱をいたしました。

同調査部会では、すべての教科書について、教科、種目、発行者ごとに専門的な調査研究を行い、調査資料をまとめ、6月25日に同審議委員会に提出いたしました。

また、6月7日から7月13日までの間、市内6館の図書館におきまして、教科書の見本を提示し、併せて市民の方々を対象としたアンケートを実施し、ご意見等を寄せていただきました。

各学校におきましても、各教科書の調査研究を行い、その結果を報告書としてまとめ、同審議委員会に提出いたしました。同審議委員会からは、これらの資料をもとに検討を重ね、まとめたものを同調査報告書として、7月17日に提出いただきました。なお、教育委員の皆様には、同審議委員会からの報告書のほか、各学校における調査研究報告、各教科書発行者の教科書趣意書、東京都教育委員会が作成した調査研究資料、図書館で実施したアンケートの写しをお渡ししているところがございます。これらの資料も併せてご参照いただき、ご協議いただきたいと存じます。

以上でございます。

## ○森井委員長

ありがとうございました。

採択する小学校教科用図書につきましては、9教科、11種目でございます。協議の手順といたしましては、本日は種目ごとに、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健の順に委員の皆様からご意見をいただき、種目別に採択を決定する議案に載せる教科用図書の候補を選定いたします。8月21日の教育委員会定例会では、さらに各種目の候補を1者に絞り込み、協議終了後に議案を作成し、審議する予定でございます。

それでは、小学校教科用図書の見本も用意されておりますので、適宜ご参照いただき、また、既に7月定例会で報告をいただいております「小平市立小学校教科用図書審議委員会報告」についても参考にご協議願います。なお、進行状況にもよりますが、協議する内容が非常に多いですので、理科の協議に移る前あたりで、1回休憩をとりたいと存じます。

なお、前回の平成22年度の小学校教科用図書の採択の際には、平成20年3月の現行学習指導要領の告示を受け、教科用図書の内容が大きく変更になっておりました。今回は、学習指導要領の改訂はありませんので、基本的な考え方に違いはないものと考えておりますが、教科ごとの協議に入る前に、各教科の目標や現行の学習指導要領の改訂の際のポイントについて、事務局より説明願います。

それでは、初めに、国語について行います。

### ○高橋教育部理事

それでは、国語の目標及び改訂の際のポイントについて、ご説明いたします。

国語の目標は国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる、でございます。

改訂の際のポイントとして、4点、1つは言語の教育としての立場を一層重視し、実生活で働き、各教科等の基本ともなる国語の能力を身につけることに重点を置くこと。具体的には記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を通して指導することをさらに重視しております。

2つに、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し、表現する能力、互いの立場を考え尊重し、言葉で伝え合う能力の育成を重視することです。

3つに、読書活動を通して、本や文章を選んで読んだり、本や文章を活用して自分の考えを記述したりすることの重視です。

4つに、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を新設し、昔話、神話、伝承、ことわざ、古事成語、古文・漢文などの音読など、我が国の伝統的な言語文化、古典に親しむ態度を育てる内容を充実することでございます。

以上でございます。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、国語の協議に入ります。国語につきましても、発行者5者から見本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい国語」、学校図書が「みんなと学ぶ 小学校国語」、三省堂が「小学生の国語」、教育出版が「ひろがる言葉 小学国語」、光村図書出版が「国語」となっております。

それでは皆様から、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

### ○山田委員

ただいま高橋教育部理事からご説明があったとおり、どの教科書も学習指導要領に則った内容であったと思っております。

まず国語は5者ございますが、どの教科書も話す・聞く・書く・読むのそれぞれの領域におい

てバランスよく取り入れ、基礎基本の確実な習得を助け、児童の能力を高める工夫がなされ、全体的によく工夫がなされた教科書であると感じております。

そちらを踏まえた上で、私は光村、そして三省堂の2者を候補に挙げたいと思います。

まず光村ですが、国語の基礎基本は読むことから始まりますが、その読み物という観点に私は重きをおきたいと思いました。全般的に教材が興味深く、例えば6年生の教科書の「カレーライス」「海の命」「やまなし」は読み物として心が動かされる、そしてしっかり心の奥にいつまでも残る作品であると私自身感じました。また、自身が当時習ったことがない、ノートづくりという点でも指導がしっかり反映されており、児童にとってもまた指導する先生方にも、良い教材なのかなと感じております。

また審議委員会からの報告にも、現在の状況からさらなる改善点が目立ち、内容も充実していて、使いやすい。単元でのつきたい力がわかりやすく提示され、単元の日当てがわかりやすい。入門期の教材「さあ はじめよう」が大変充実しているなどとあります。

また、日本の四季を取り入れて、各季節の様子を写真、漢字、言葉から四季を学べるという点は、非常にすばらしいと感じております。全体的に写真、挿し絵の選択も児童の想像をかきたてる上での確であると思っております。

また、読書活動を進めるために、付録の「この本、読もう」のコーナーでは、児童が興味を持って読んでみたいと思えるようなレイアウト構成で、多くの本を見やすく、またわかりやすく紹介をし、児童の読書活動の参考または手助けになると感じました。

次に三省堂ですが、この教科書もやはり読み物としてどうかという観点に重きをおきたいと思っております。例えば6年生の教科書の「竜」「紅鯉」が読み物として心が動かされ、しっかりと心の奥にいつまでも残る作品であると私は感じました。特に個人的には「紅鯉」が読み物としても最も印象が強く、主人公の複雑な心境が自分ごとのように伝わってまいりました。重複しますが、こういった心が動かされる、そしてしっかり心の奥にいつまでも残る作品を、ぜひ児童に読ませたいと思っております。

また、同じく6年生の教科書の144ページ「『なべ』の国、日本」の、読み物としてというよりは、日本の様々な食文化の一つの情報として、とてもユニークな観点での紹介であるとも感じております。

まとめますと、話す・聞く・書く・読むといった全般的なバランスを考え、児童の言語活動の充実や伝統的な言語文化を理解し、親しむことができる、そして読書活動の充実といったことから鑑みますと、私は光村が一步リードしているかと思っております。

以上でございます。

### ○三町委員

私は、教科書を選ぶ場合には国語だけではないのですが、子どもが使うということで、子どもにとっての使いやすさ、そして教師が主たる教材として、教科書を使って教えるということでの指導のしやすさ、その2点が大きくあるかと思っています。それを両方満たすというのは、なか

なか難しい、つまり編集の仕方によって、子どもが自分で学んでいけるような形を重点においているもの、あるいは指導する場合に指導しやすいもの、そのバランスが非常に難しいのかなというところで、自分としては子どもにとってということを意識して、どの教科書についても、あるいはどの教科についても見ていったところでございます。

その中で国語についてですが、子どもにとってということでは、まずそれぞれの教科書によって、分冊、あるいは通しで1冊にしているとか、色々教科書会社によって違うなということ。それによって、全教科そろると重量の問題とかもあります。そういうことでの子どもの負担等も考慮したつもりです。

その中で子どもの学びやすさということで、自分が意見を持ったのは、題材についてねらいとこののですか、光村は「つけさせたい力」というところがかなり細かく書かれていて、子どもにとって目標が明確になっているかなと。そういうことで勉強を自分が進めていこうとしたときにも進めやすいという、はっきりしたものが特徴的に見られました。

それから、これは逆に指導等の立場もあるんでしょうけれども、調査報告書の中にも昔話がもう1つ欲しいというようなことがありました。それで、各教科書会社の2年生だけ調べましたら、上下巻で1つずつ取り扱っている教科書、それから1つだけというところ、それも読み聞かせの形であったり、子どもが読む形であったり、それぞれ扱いが違っていました。ただ、いずれにしても、先ほど今回の改訂の趣旨の中であった、昔話等も重視するというのであれば、上下巻分かれているならば2つ必要かというところで、これは光村だけではありませんが、光村もそれは満たしておりました。

それから、これも調査報告書に、入門期の教材「さあ はじめよう」が充実しているというようなことがありました。それを見ましてもやはりとても明るく夢があり、国語をこれから勉強するぞという雰囲気が出ていてということ、そして、実際にページ数も確か25ページくらい割いていただいていたいました。そういう意味で子どもが教科書を手にとって、さあ勉強していこう、そして実際に何かをやるとうきょうきに、非常に入っていきやすい、そういう教科書ということで、私は光村を第一候補にしたいと思っています。

そういう視点で見まして、ほかの教科書会社に順位をつけるのはどうかわかりませんが、次が東京書籍かと、そんなところで、国語については見ていったところでございます。

以上です。

## ○高槻委員

日本の言葉を勉強するというのであれば、いずれの教科書も大変よく練られていて、遜色はないと思いました。そうした中で、山田委員もおっしゃったのですが、確かに光村の取り上げている文章は心に残るようなものがあるという印象はありました。ただし、目次に必ずしも著者名が書いていない例があつて、それはあまりよくないと私は感じました。

私自身が一番いいと思いましたのは東京書籍で、少し例を挙げますと、文章が非常に良いものが選ばれていると思いました。私は動物学者ですが、5年生に増井光子先生の「動物の体と気

候」ということで、動物の進化の問題がとてもわかりやすく書いてありました。

それから、最後の方に富山和子先生の「森林のおくりもの」、この先生は田んぼのこととか、川のこととか、そういうことの鋭い文章を書かれる先生ですが、これが取り上げてあったこと。

それから、6年生では、鷲谷いずみ先生の「イースター島にはなぜ森林がないのか」、それから、日野原重明先生の「君たちに伝えたいこと」など、非常にすぐれた文章を厳選して取り上げてあったことから、東京書籍を一番に薦めたいと思いました。

審議委員会の報告でも、教える側からして効果的に進められるということ。それから、あまり本質的じゃないかもしれませんが、表紙が非常にすっきりとかわいらしい絵が書いてあって、子どもたちが好きになるのではないかとということで、1に東京書籍、2に光村ということで、推薦したいと思います。

以上です。

## ○関口教育長

私は国語の教科書の選定に当たりまして、4つの観点から考えてみました。1点目は皆さんがおっしゃるとおり教材のバランス、それから文字が読みやすいということ。

2点目は読むことに関しては、児童が興味関心を持ちやすく、作家のイメージが伝わりやすい作品を使用していること。

3点目は、やはり学習指導の観点から学習のねらいがわかりやすく計画的に指導しやすいこと。

4点目は、最近の全国の学力テストの結果を見ますと、文章や資料を読み取り考えを記述する力、これが本市にとってはよりつけたい力として求められているということ。

こういった観点から選定したところ、どちらの教科書も教材のバランスを考慮しながら、紙面構成されておりますが、その中でも光村図書につきましては、読む、書く、聞く、話すの4つの領域が、特にバランスよく配分されていると思いました。

それから、読むことに関しては、定評のある作品と、また新しい作品のバランスがいいということ。それから書くことに関しては各学年の年間2か所の単元と、4か所の小単元に配置されていて、繰り返し学習ができるようにされているということです。

何といたっても特徴的なのが、文字が読みやすく親しみやすいという点です。これは特にすぐれていると思います。また、伝統的な日本の言葉として、俳句や短歌、昔話など、作品数が他者よりも多いかと思いました。それらのことから総合的に判断しまして、光村図書出版を候補にしたいと思います。

その次に候補に挙げるとしますと、私は東京書籍を候補として挙げたいと思います。東京書籍の場合は言葉の力をテーマにして、すべての領域でうまく単元ごとに設定されていると思います。

単元の冒頭にねらいやチェックマークによる振り返りなど、全体的に言葉の力が着実に身につくように構成されていることから、候補として挙げたいと思います。

私からは以上です。

## ○森井委員長

ありがとうございました。

委員の皆様からの意見も出尽くしたところですが、先ほど高橋理事からのご説明の中にもありましたように、国語の目標の中で国語に関して重要であることとして、学習指導要領の領域で、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、そして伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についてのご説明がありました。

昨年実施されました全国学力・学習状況調査の結果、今教育長からもお話がありましたが、小平市の6年生の結果として、国語の主として知識に関する問題で平均正答率は全国、東京都の平均を上回っているものの、話すことと聞くことの正答率に課題があり、また主として活用に関する問題でも記述式の正答率がやや低いとの結果が出ています。

国語の教科書には文章を読解する力と、その中から必要な情報を読み取り、それを整理し、自分の考えを記述する力を培うことが求められると思います。その観点からも、また読書活動を進めるといった点からも、ただいま各委員の皆様からいただきました三省堂、東京書籍、光村図書の教科書は確かに良いのではないかと思います。

私としては、三省堂は目次に領域が示されており、見通しを持って学習が進められること、また図書館の活用や調べ学習の仕方を具体的に示すことにより、児童が自主的な学習を進める手助けになること、などがすぐれている点であり、2学年以降は「小学生の国語」と「小学生の国語学びを広げる」の分冊になっており、資料集として内容が豊富な点が特徴であると言えると思います。

東京書籍は学習の進め方とノートづくり方が最初に示されており、審議委員会からの調査報告書には指導に役立つ、また学習が効果的に進められる工夫が目立つとの意見も出されています。また、紹介している図書が1年から6年まで合計526冊と5者の中で一番多いのも特徴です。

光村図書については、東京都教育委員会作成の調査研究資料の総括からも、どの分野もまんべんなく取り扱われており、また5年生の教科書の中の38、39ページにあります「二つの記事を比べよう。」では、同じ記事を比較することで、情報活用能力を学ばせるなどの工夫も見られます。「季節の言葉」のコーナーでは、季節感を感じるとともに、伝統的な言語文化に触れる教材があること。付録の「学習を広げよう」では、まとめと本の紹介などが各学年にあり、児童につけさせたい力をきちんと明記してあることなどが良い点であると思います。

皆様からもほぼ意見が出そろったかと思いますが、ほかにご意見ございませんでしょうか。

それでは、皆様のご意見を総合いたしまして、国語の議案候補は、東京書籍、三省堂、光村図書出版ということでよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

## ○森井委員長

では、国語の議案候補ですが、発行社名、東京書籍「新編 新しい国語」、三省堂「小学生の

国語」及び光村図書出版「国語」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

#### ○森井委員長

では、以上の3者を議案候補として残したいと思います。

では、次に、書写に移ります。

書写について、事務局より説明をお願いします。

#### ○高橋教育部理事

書写でございますが、国語の目標にのっとり、学年ごとにその内容が学習指導要領に示されております。例えば第5学年及び第6学年においては、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く早さを意識して書くことや、目的に応じた使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。毛筆を使用して穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことなどが示されております。

以上でございます。

#### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、書写の協議に入ります。書写につきましては、発行者6者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい書写」、学校図書が「みんなと学ぶ 小学校書写」、三省堂が「小学生の書写」、教育出版が「小学 書写」、光村図書出版が「書写」、日本文教出版が「小学書写」となっております。

それでは皆様からご意見を伺いたいと思います。ご発言をお願いいたします。

#### ○山田委員

書写は6者ございます。同じくともに学習指導要領に則った内容で、全体的にはよく工夫がなされた教科書であると感じております。また、すべてキャラクターによる挿し絵の吹き出しなどで、注意点やポイントを押さえ、とてもわかりやすいものになっていると思います。また、書写の基礎基本である書くときの姿勢、筆記具の持ち方のページは、わかりやすく、見やすく、かつシンプルであることが重要であると思っております。

そちらを踏まえた上で、私は、光村と東京書籍の2者を候補に挙げたいと思います。

まず光村ですが、書くときの姿勢、筆記具の持ち方のページが他者と比べ、最もわかりやすく、見やすく、かつシンプルで良いと思いました。特に「比べてみよう」という項目で大筆、小筆、鉛筆の書き方、持ち方を写真で見比べ、視覚からしっかり感じ取れる、学び取れる工夫が良いと思っております。

また、「もっと知りたい」「資料」というページでは、一步上の学習を淡いカラー、濃い目のカラーで囲む工夫をし、全体的にとっても見やすく、わかりやすい教科書と言えると思います。

続きまして、東京書籍ですが、こちらの特徴は唯一教科書のサイズがワイド判であることが挙げられます。そのため左ページのさらに左端に学習する内容が、または学習してきた内容が一目で理解できる工夫がされております。また書くときの姿勢、筆記具の持ち方のページでは、用具の置き方と扱い方、後片づけまでも網羅したものとなっております。

また左ページにお手本の文字、そしてほかの説明などが一切なく、1ページにすっきりと書いてあります。その文字の書き順などが逆の右ページにあり、レイアウト構成がとてもわかりやすく、見やすく、学びやすいところがとても気に入ったところがございます。

子どもたちが硬筆でも毛筆でも書くことに興味関心を示し、正しく学べる教科書ということを考えますと、なかなか甲乙つけがたいのですが、私は東京書籍が今回は一步リードしているか今のところ感じております。

私からは以上でございます。

### ○高槻委員

私は書写に関しては、国語の教科書とペアになって、日本の言葉の書くという部分を担っている要素が大きいということから、文章を読む、内容を理解する、作文などは国語のほうに任せて、書写は上手な字を書くということに徹したほうが良いと思います。その意味で、作文等はあまりないほうがむしろすっきりすると思います。その意味では三省堂が一番すっきりしているかと思いました。

2番目は、光村は写真入りの姿勢とか筆の持ち方とかが書いてあり、良いと思いました。これからの時代、筆で字を書く機会は昔よりも減ってくる、そうでなくても、そもそも字を書くことが減ってくるということを考えると、この科目はとても重要だと思うので、小学校の低学年のときから、正しい姿勢で字を書けるようにすることが大切だと思います。その点でいっても三省堂と光村図書が良いと思います。そこで私は第一候補として三省堂、第二が光村図書を推薦したいと思います。

### ○三町委員

私も書写については、見せていただいて、昔とかなり違って、色々な面での情報がしっかり入っていて、子どもが学ぶ上でのポイントがよくわかるつくりになっていました。これは、どの教科書会社もそうだとすることで感心をしたところです。扱っている教材もなかなかいいものがたくさんそろっているということで、大変甲乙つけがたい、そんな印象を持ちました。

その中で各委員からも話が出ていますが、やはり筆の持ち方や姿勢というのは、生涯にわたって影響するような非常に重要なことだと思っています。そういう意味での姿勢だとか持ち方についての表現を比べてみまして、やはり光村の教科書が写真、絵、説明、6年生も大きくわかりやすい写真で、子どもから見て、どういう持ち方がいいのか、どういう姿勢がいいのかが、一番わ

かる教科書かと思いました。

そういう面で見ますと、やはり写真が大きかったり、あるいは説明がしっかりしているというのでいうと、次に日本文教出版が自分にとってはいいと感じました。

そういうことで、順番をつけるとするならば、光村そして日文というところで自分としては推薦したいなと考えています。

### ○関口教育長

これまでの委員の選定の仕方と私も見方はそう変わらないのですが、同じレベルで候補として挙げさせていただきたいのは、光村図書出版と東京書籍です。光村図書出版につきましては、書く姿勢、筆の持ち方、用具の使い方など写真をうまく取り入れて、わかりやすく説明されているということ、それと、毛筆と硬筆のバランスも考慮されていていいと思いました。

それから、東京書籍につきましては、一番特徴的でいいと思いましたのは、右ページには指導ポイント、左ページには手本がありまして、指導の流れに沿って文字を書くときにページが使いやすいかと思います。そういったことから東京書籍も同じウエイトで候補に挙げたいと思います。以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

各委員さんからそれぞれの発行社名の名前が出たところですが、私としては皆様のご意見と同じく、1年生の初めに示されている姿勢と、鉛筆の持ち方などを比較したところ、光村図書と日本文教出版がいいのではないかと感じました。

そうすると、候補がたくさん挙がってきていますが、今までの委員のご意見を総合いたしますと、光村図書はそのまま候補として挙げていいと感じました。それ以降、もう1者挙げるとすると、東京書籍が2人の方が2番目の候補、それとあと日本文教出版も2番目の候補ということで挙がっております。三省堂を1番目の候補として挙げていただいた高槻委員はいかがでしょう。

### ○高槻委員

私は1番が三省堂、2番が光村と言いましたが、この1番2番というのは、ほとんど差がない、あえて言えばということだったので、整理をするために、私の三省堂というのは取り下げて構いません。

### ○森井委員長

高槻委員が三省堂を候補として挙げられた理由も納得できる場所ではございましたが、光村図書と東京書籍、日本文教出版の3者を候補に残すことでよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

**○森井委員長**

それでは、委員の皆様のご意見から、書写につきましては、発行者名、光村図書出版、図書名「書写」、発行者名、東京書籍、図書名「新編 新しい書写」、発行者名、日本文教出版、図書名「小学書写」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

**○森井委員長**

では、その3者といたします。

次に、社会に移ります。社会について、事務局よりご説明をお願いいたします

**○高橋教育部理事**

それでは社会の目標及び改訂の際のポイントについて、ご説明いたします。

社会の目標は、社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家、社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うでございます。

改訂の際のポイントとして4点、1つは47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置など、学習や生活の基盤となる知識についての学習を充実させたこと。

2つ目は、教育基本法、学校教育法の改正で強調された伝統と文化の尊重を具現化しようとするための学習の充実。

3つは、環境や防災、情報化、法や経済の基礎となる内容など、より良い社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと。

4つとして、言語活動の充実面で、考えたことを表現する力の育成を各学年の目標に新たに規定し、さらに地図の活用や観察や調査、見学、表現活動を充実するとともに、新たに資料の活用と地球儀の活用を規定したところなどでございます。

以上でございます。

**○森井委員長**

ありがとうございました。

それでは、社会の協議に入ります。社会につきましては、発行者4者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい社会」、教育出版が「小学社会」、光村図書出版が「社会」、日本文教出版が「小学社会」となっております。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思います。

**○高槻委員**

改めて社会科の教科書を見て、私が印象を受けましたのは、我々の時代と比べ、非常に情報が多く、それが美しい写真と図で、わかりやすくする工夫が大変に進んでいるということです。

小学校の3年生、4年生では自分の住んでいる町の勉強をするようになっていきます。教科書によっては災害のことが取り上げられていました。それから5年生になると農業とか工業とか取り上げられています。力の入れ方は出版者によって違うようですが、ここで災害を取り上げたり、自然のことが取り上げたりしているものもありました。6年生になると、歴史あるいは国際問題などが取り上げてあって、子どもからすると本当に勉強することがたくさんあり、社会科がカバーする範囲は広いのだと思いました。

4者の教科書を比べてみて、結論的に言うと、私は日本文教出版が1番、2番目が光村だと思いました。その理由は、4者の中で日文の教科書は日本史が一番詳しく書いてあったからです。今、国際的にもそれぞれ自分の国の歴史を勉強することがとても重要視されています。その意味で、ここが一番詳しくあったという点を評価しました。

それから6年生の中に老人介護のことが取り上げてあって、これはほかの出版者にはなかったもので、これはとてもいいことだと思いました。それから、表現の方法として、テーマについて、子どもが質問するような形で、男の子と女の子のキャラクターが出てきて、質問して、それに答えながら一緒に考えるという工夫がしてあって、とても良いと思います。

光村も大体そういう印象でしたが、比べると歴史の部分、それから理解するための工夫というのが、特にはないなということで、2番目としました。

以上です。

### ○三町委員

私の見方として、社会科は3年生、4年生が地域の、ここと言えば小平市、そして東京という並びだということで、3年生、4年生の扱いはどういうふうに見るか、社会的にどういうふうに見るかということで、扱っている地域はあまり気にしないでいいのかということで見ました。

その中でも気になったのは日文の5年生ですが、調査、審議会報告の中にもありますが、気候の変化について、沖縄と比較しているのが関西となっており、やはり地域に根差した教科書であるとするならば、東京と比較するべきかと思いますので、私としては、本市で使用する教科書とは考えないということでございます。

5年生、6年生の扱いの中で、まずやはり現在色々な世の中の社会問題と申しますか、ものの考え方というか、しっかりしなきゃいけない大きな問題は、日本の領土というところであろうかと思えます。そういう意味で一定程度日本人として小学校5年生くらいになれば、あるいは6年生くらいになれば、そういうことについての事実と課題というのをしっかり認識しなければいけないと思っています。

そういう扱いで見まして、教育出版と東京書籍の扱いがしっかりされているかと思えました。教育出版の場合は5年生の最初ところで尖閣諸島もきちんと表示されていたり、あるいは記述資料あるいは写真がしっかり載っています。

それから東京書籍も領土についてはきちんと写真が載っていますが、扱いとして教育出版は本文でも記述されていて、東書のほうはコラム扱いだったり、そういうことの違いがありました。

それから6年生のほうでも、やはりこれは扱い方として教育出版は6年生の下巻の「世界の中の日本人」という中の、韓国、中国を調べるという中で、今ある課題もしっかりと、はっきりと記述がされていました。東京書籍の場合は6年生の上巻の一番最後につけ加えられたという形で記述がありましたが、文章としては、まだ少ないという印象も持ちました。

それから歴史的な流れとして、明治以降の流れはどの教科書もしっかり書かれておりましたが、教育出版はコラムに富岡製紙工場が大きく取り上げてられていて、ちょうど時期にあったものになっていると感じたところです。

細かいところはまだまだたくさんありますが、そういう視点で見えていきまして、自分としては教育出版を1番に、そして2番目に東京書籍を推したいと考えています。

以上です。

## ○山田委員

これまで委員がおっしゃっていたとおり、まずは社会が4者ございますが、やはり全体的には同じく学習指導要領に則った内容で、全体的に絵や写真などを交え、よく工夫がなされていると感じております。また社会は、問題解決的な学習が重要視されるものと思っております、児童が基礎基本を身につけられるよう、学び方をわかりやすく示していることが大切と思っております。

そこで特に重要視しなければならないと思われ、三町委員もおっしゃっていましたが、領土領域の部分で、私は北方領土が、あるいは竹島が、あるいは尖閣諸島が日本固有の領土であると、まずは言い切り型の文章であることが重要と捉え、その観点ではすべての教科書が言い切り型となっております。しかしながら、その説明文で不足を感じるものもございました。

以上を踏まえた上で私は教育出版、そして東京書籍の2者を候補に挙げたいと思います。

まず教育出版ですが、各学年とも目次のページで教科書の使い方や、「学びのてびき」、「もっと知りたい」のコーナーでは、発展内容を知ることができるなど、わかりやすく、見やすくまとめられていて、児童にとって使いやすく見通しを持って学習に当たることができると思われました。

また各ページに学習問題と活動が明記されていて、学習しやすい点や問題解決的な学習の進め方について、何をどう学べば良いのか、捉えやすい工夫がなされていると感じております。

また5年生の上の12ページと13ページで取り扱っている領土領域の部分では、北方領土、竹島、尖閣諸島がそれぞれの地図で領土をしっかりと確認できるようになっておりまして、とても理解しやすく、また問題解決的な学習という観点からも、言い切り型でありながら、一日も早い返還を求めることや、日本の島々をめぐる問題を解決することは、我が国にとって重要な課題であること、さらには自国の主張を相手国や国際社会にしっかりと伝えながら、平和的な解決に向けて、粘り強く努力を続けていく必要があることなど、グローバルな視点からも児童に問題点を

しっかり理解させられる、かつ考えを持たせることができる文章であると感じました。ただ、ほかと比べますと、全体の日本地図でもその領土が一目で理解できる工夫や、もう少し写真を用いてほしいところもございました。

続いて、東京書籍ですが、「まなび方コーナー」で、「見る・聞く・ふれる」、「読み取る」、「表す・伝える」、また、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」という学習段階が明示されていて、子どもの成長に即した問題解決的な学習が進めやすい構成になっていると思います。また、学習の進め方や学習問題が具体的であったり、地域の学習教材や補助教材が豊富で、児童の関心を高める工夫もなされていると思います。5年生の上の8、9ページで取り扱っている領土領域の部分では、日本地図と写真で西の端、南の端、東の端、北の端の島を写真で紹介している点がとてもわかりやすく理解しやすいと感じております。

また、領土をめぐる問題を文章で言い切り型としてしっかりと伝えているものの、スペースの問題もあってか、若干言葉足らずで、伝わりづらく、問題解決的な観点というところでは、やや不足しているとも感じております。

以上のことから、私は教育出版が1歩リードと感じております。

以上でございます。

## ○関口教育長

社会科の教科書の選定に当たりましては、児童が身近な地域だけではなくて、まだ知らない地域や人物、社会の仕組みを学ぶこととなりますので、学習の動機付となるためには資料とか写真がわかりやすく、見やすいものがいいかと思いました。

また、例えば水とかごみの減量など、自分で探求して課題を見つける学習に適しているかどうかという点、あとは学習の手順がわかりやすいという点、あともう一つが5年生に出てきますが、インターネット情報の活用と、その問題点については、大きな差はありませんでした。

そういった中で、候補として挙げさせていただきたいのは、教育出版です。「まとめる」、「深める」など、課題をつくって学習過程を見通しができるように構成されているということで、課題解決的な学習の展開ができるというのが一番いいかと思います。それと6年生の下巻のほうでは、比較的今日的な課題も取り上げていいかと思いました。

それからその次の候補として、東京書籍を挙げさせていただきたいと思います。こちら「学習の進め方」のところ、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」と、こちら「学習段階」が示されていて、学習のポイントがわかりやすいということと、課題解決型の学習がしやすいと考えました。

もう一つが東京書籍の場合は、小平市の副読本と単元配列が同じであるという点もありまして、教科書と副読本とを対応させた学習にもプラスになることから東京書籍と教育出版を候補として挙げさせていただきます。

以上です。

## ○森井委員長

ありがとうございました。

委員の皆様からご意見をいただきまして、私としては高橋教育部理事からご説明のありました改訂の際のポイントの中で、都道府県の地理的な位置や、世界の主な大陸と海洋と主な国の名称と位置について見た場合、教育出版と東京書籍がその点について扱が多いとの報告が東京都教育委員会の調査からも明らかになっております。

また自然災害の防止等については、日本文教出版が多く取り上げられており、審議委員会の調査報告でも基礎基本の確実な習得ができる内容であるとの意見も出ております。また図書館で行われたアンケートでは、光村図書の教科書は字が大きくカラフルでわかりやすいとのご意見もあり、4者とも大変すぐれた教科書だと考えております。

私といたしましては、皆様のご意見を伺った上で、さらに教育出版と東京書籍がいいのではないかと思います。

まず教育出版が特徴的なのは「学びのてびき」ということで、基礎基本を、「もっと知りたい」のコーナーでは、さらに理解を深めるために発展的な内容を学ぶことができるということですので。また取り上げられている地域に関東が多いという点も、小平の児童が学ぶのにはいいのではないかと考えました。

東京書籍は学ぶ内容が各学年バランスよく配置されている点と、審議委員会の調査報告書には、学習の進め方や、学習問題が具体的でまとめ方も示されており、学習が進めやすいとの点も挙げられております。何より字の大きさが見やすく、キャラクターやイラスト、そして豊富な写真や図、グラフなど児童の興味を引く工夫がなされていると、読ませていただいて感じることができました。

それでは社会につきまして、ただいま委員の皆様からいただいたご意見や審議委員会などの報告を参考にしながら、教育出版は4人の方から候補とするのでいいのではないかとのご意見が出ました。高槻委員は日本文教出版ということでご意見をいただきましたが、3人の方から東京書籍を候補とするご意見が出ましたので、その2者を残すということではいかがでしょうか。

## ○高槻委員

森井委員長のほうからもありましたが、日文は災害を取り上げているという点、それから私が言いましたように、日本史が詳しいという良さはやはりあるように思うので、3者を候補にするということでどうでしょうか。

## ○森井委員長

では、今、高槻委員からご意見も出ましたように、教育出版、東京書籍、日本文教出版ということで、4者のうちの3者で、さらに検討を深めていただくということではいかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

### ○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、社会につきましては、発行者名、東京書籍、図書名「新編 新しい社会」及び発行者名、教育出版、図書名「小学社会」、発行者名、日本文教出版、図書名「小学社会」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

### ○森井委員長

では、その3者ということにさせていただきます。

次に、地図に移ります。

地図につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

### ○高橋教育部理事

それでは、地図についてご説明いたします。

先ほど社会でも申し上げましたが、47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置など、学習や生活の基盤となる知識についての学習を充実させることがあります。

また、地図の活用や観察、調査、見学、表現活動を充実するとともに、新たな資料の活用と地球儀の活用を規定したところがございます。

以上でございます。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、地図の協議に入ります。地図につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい地図帳」、帝国書院が「楽しく学ぶ 小学生の地図帳 4・5・6年」となっております。

それでは皆様より、ご意見を伺いたいと思います。

### ○高槻委員

地図は2者なので見比べる形で拝見しました。東京書籍は判が大きく見やすいのですが、ほかの本から飛び抜けているので、ランドセルに入れたりすることも考えると、同じ大きさのほうがいいのかとも思いました。

帝国書院の地図は我々の時代からずっと伝統的に見ていたということもあるらしく、見やすいということがありました。

また、帝国書院は、最初に地図帳の使い方が丁寧に書いてあるということ、それから日本の地図のことを最初に説明して、その後世界がでてきます。私は、小学校のときには自分の国のこと

をきちんと勉強するということがとても大事だと思いますので、その点で帝国書院がいいと思いました。

それから、審議委員会のコメントの中でも防災的などころで、工夫がしてあるということが書いてあったので、私もそういう目で見ましたが、確かにそういう工夫もしてあるということから、帝国書院のほうを薦めたいと思いました。

以上です。

### ○三町委員

2者ですので比較して見ましたが、やはり今高槻委員からもお話がありましたように、東京書籍は大判で開いた瞬間非常に見やすいという印象を持ったところです。そういう意味では若干子どもにとっては扱いやすいと思ったところはありません。

内容的には、防災について東京書籍は1か所まとめて整理されて非常にわかりやすいように思いましたが、帝国書院のほうも防災についてもきちんと書かれておりました。

それから、資料として、それぞれ地図だけではなく色々な資料が載っているわけですが、その多さを考えたら帝国書院のほうが多いという感じがしました。帝国書院の場合は日本の歴史年表が載っていて、その歴史的な事実と地図との関連づけ、そういうところも書かれていました。これが私は非常に特徴的で使いやすいといえますか、関連づけて学べるいい資料になっているように感じました。

それから、先ほどの社会科でもお話ししましたように、やはり地図である以上は領土のことについてきちんと書かれているかどうかという目で見ました。そうしましたら、やはり帝国書院のほうは北方領土、竹島、それから尖閣諸島についても、ともに写真がしっかり入っていて、日本の領土だということをちゃんと意識できるような表現になっています。東京書籍のほうは、写真は北方領土のみ掲載されている。そういう領土を意識するという意味では帝国書院のほうかということで、相対的に見て、私は帝国書院ということで推薦したいと思っております。

以上です。

### ○山田委員

私も帝国書院を薦めたいと思います。単純に地図の見やすさというのは、文字のフォントの使い方でありまして、区別をしっかりと、情報を即座に視覚から得やすいということが非常に大事だと思っております。その観点で明らかに帝国書院のほうがフォントやフォントサイズ、レイアウトがすっきりとしていて、とても見やすいと感じております。

また災害への備えなど、今日的な課題をトピックページで表現するなどの工夫も見られ、一生手元においておける地図だとは思っておりますが、ただ一生手元に残すということでは、表紙のデザインを私が使っていたころのブルーの非常にシックな、以前のデザインに戻していただきたいという個人的な見解もございます。

以上でございます。

## ○関口教育長

どちらもよく工夫されてつくられていると思いますけれども、東京書籍のほうは縦長であるという特徴をよく生かしていて、「ながめてみよう日本のすがた」や「日本の自然」、または日本の周囲や海の深さなど、立体的にわかりやすく示されていました。

もう一つが日本列島のプレートがわかりやすく表示されていて、地震に関する学習に対応しやすいかとも思いました。

また一方、帝国書院のほうは、各委員がおっしゃるとおり、シンプルでバランスがいいということと、色使いが鮮明で見やすい。または地図帳の使い方やまとめ方が丁寧であるということで、総合的に判断すると学習活動に適している帝国書院を候補として挙げたいと思います。

以上です。

## ○森井委員長

ありがとうございました。

私も皆様と全く同意見で、第一に見やすさ、そして初めて地図帳を使う4年生にも活用しやすいなど、わかりやすさを重視した作り、そして世界の中での日本、また都道府県の位置などがよくわかるという点からも帝国書院がすぐれているかと思えます。

委員の皆様のご意見が出そろい一致いたしましたので、地図につきましては、発行者名、帝国書院、図書名「楽しく学ぶ 小学生の地図帳 4・5・6年」を議案候補といたしたいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

## ○森井委員長

次に、算数に移ります。

算数について、事務局よりご説明をお願いいたします。

## ○高橋教育部理事

それでは、算数の目標及び改訂の際のポイントについて、ご説明いたします。

算数の目標は算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的、基本的な知識及び技能を身につけ、日常の事象について見通しを持ち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや、数値的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てるでございます。

改訂の際のポイントとして3点、1つは算数的活動を一層充実させ、基礎的、基本的な知識、技能を身につけ、数学的な思考力、表現力を育て、学ぶ意欲を高めることです。

2つは数学的な思考力、表現力を育成するために、根拠を明らかにして、筋道立てて考えたり、

言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、自分の考えを説明したり、伝え合ったりすることの指導を充実することです。

3つは、基礎的、基本的な内容の確実な定着を図るために、学年間で同じ系統の内容を設定し、内容の程度を少しずつ高めてつないでいく教育課程を編成することです。

以上でございます。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、算数の協議に入ります。算数につきましては、発行者6者から見本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい算数」、大日本図書が「新版 たのしい算数」、学校図書が「みんなと学ぶ小学校 算数」、教育出版が「小学算数」、新興出版社啓林館が「わくわく算数」、日本文教出版が「小学算数」となっております。

それでは委員の皆様から、ご意見を伺いたいと思います。

### ○三町委員

算数を見させていただきました。どの教科書もやはり問題解決的な単元構成になっていて、そして子どもが学んでいけるような形にはなっている教科書だと思いました。その強弱という部分という印象を持ちます。つまり、特に算数で子どもが見て学んでいく上で、例えば考え方のヒントがたくさん入っている教科書と、逆に教師が使う上で、教師がうまく投げかけて、投げかけた言葉で子どもに考えさせる教科書、そういうことで若干トーンが低いとか、そういう違いが発行者によって出ているということを感じました。

小平市の子どもたちの算数の学力でいうと、基礎基本については一定程度平均以上、それから応用に関しても若干上ということで、それなりの力はあるということを見ると、やはり基本もしっかり押さえながら、そして考え方もしっかり育てていくつくりの教科書を見ていきたいということ考えました。

そうすると、題材の扱い方がやはり発行者によって違ったり、具体物だとか半具体物、線分図や数直線、その扱い方がやはり発行者によっても違うというところを感じたところです。

例えば1年生の下で繰り下がり引き算のところでは、そのタイルの形も実際に使うタイルに似たような絵になっている教科書があれば、若干違うところもあります。それから、タイルの並べ方も10の束は1で繰り上がり下がりがあるなしということですが、10の束とあとバラでいくつという形であったり、教科書によっては5の束が2つ並んでいて、それで10の束になっていて、残りがバラというような扱いもあります。それぞれの考え方があるのですが、考えるときには10の束が1つでそしていくつというのが自然かと思います。

それから、例えば3年生で見たのですが、割り算の最初のところで、余りのない、きれいに割り切れる割り算で、例えば導入の仕方が15のケーキかクッキーを、例えば3人で分けるという形の配分と、それから15個のクッキーを3個ずつにグループにして分ける捉え方、これはどち

らが先かという議論があります。身近なところで例えば15個のクッキーを3人で分けるのが生活場面だと自然ですが、ある教科書は意図的に、次の余りのある割り算につなげたいために、16個を3個ずつ分けるとどうなるかという捉え方。そのほうが余りが出やすいわけです。

そういう扱いについて、どっちがいいかということで、ただ、大事なのは、どちらにしても、例えば15割る3という式になります。場面は全く違うけれども、形としては15割る3となるということをどこまで意識させるか、そういうところがあります。

また、円の面積を見たのですが、円の面積はいわゆる極限の考え方ですから、高校でないと結局わからないのです。体験的に実際に方眼で切って数えるという方法と、あとはよく短冊に切つてばらすのですが、そういった方法で子どもたちに考えさせるというのは、僕は無理だと思っています。教科書によって、それで子どもたちに考えさせようとしているところや、それからある程度さらっと取り組んで、方式はこうなるという扱い方があります。僕は円の面積なんかは子どもが考えて問題解決できるような問題ではないので、面積を求める公式を使って実際に活用できるようなことが必要だと考えています。

そういうことでトータルで見ると、自分で学べるという立場が強いと思ったのは東京書籍でした。

以上です。

### ○高槻委員

三町委員は算数の先生の経験があるので、非常にわかりやすい説明をいただきました。質問ですが、高橋理事のほうから算数的考え方、数学的考え方の説明がありましたが、その意味が私にはよくわかりません。例えば国語的考え方、算数的考え方というような意味のことは多分ないのではないかと。それで円周率の問題を小学生に考えさせるのは無理だというのは納得できるのですが、そういうことが教科書によって違いがありますか。

### ○三町委員

さっき言いましたように、例えば円の面積の求め方を、かなり細かく色々な場面を見せてやっている。それから吹き出しでどうなるだろうかというようなのを考えて、やっていこうと。もっと小さくしたもので考えようとか、もっと細かくした短冊で考えてみようとか、そういう言葉で書いてある教科書と、ある程度のところで終わりにして、実際にやってみて大体公式に近い値になり、そこで終わりで、面積ですから半径掛ける半径掛ける3.14となるということで終わらせている教科書があります。

それから、考え方としての育成ということで、例えば、さっき言いましたように、1年生で、繰り下がりのある引き算というときには、どの教科書会社もかなり意識して、12引く3というのを、その前に勉強した9引く3とか、そういう場合は単純にとればよかったので、じゃあ、今度の場合はその考え方は使えるだろうかという形の発展になっています。それが今度はとれないからどう工夫しようかというように育てていく。それが算数的な活動であり、算数的な考え方で

はないかと思っています。

### ○高槻委員

わかりました。国語の場合、我々は紹介された文章の中に入るような感じで読んでいますが、算数の教科書の場合はなかなかそれが私にはできず、要するに算数ではどう解くかを先生が教えてくださって、それを覚えるような感じが強かった。数学的思考方というのは、高校くらいになって初めてわかったような気がしているのです。

私は算数の問題の解き方がわかりやすい本がいいのではないかという意識で見たということを前提に言いますが、どの教科書も非常に具体的な、我々の時代でいうと、問題集みたいな感じの教科書になっています。全体に、ごちゃごちゃした印象がありました。そういう意味ですっきりしているのが啓林館で、私は2つ選ぶとすると、1番が啓林館、そして2番目として東京書籍がいいと思いました。

ただ、東京書籍は今いった意味で具体例が非常に多くて、最初から最後まで読むのはとても負担が大きく、先生の力量によるところが大きいという印象はあります。ということで、順位としては1番が啓林館、2番が東京書籍というふうに思いました。

以上です。

### ○山田委員

算数は全部で6者ありますが、私も東京書籍と啓林館、この2者を考えております。

まず東京書籍ですが、三町委員におっしゃっていただいたとおりでございますが、あと導入を大切にしており、児童の興味とか関心を高める工夫を非常に感じました。問題と解決を別々のページに掲載していますが、その児童の発達段階の思考過程を大事にしているとも感じております。

また、全体的に、理解が積み重なるようなヒントや、解説が発展的で、内容も充実していると思っております。全体的に各領域のバランスが非常にいいということで、1番に推したいところでございます。

また啓林館ですが、学習内容、問題解決型という点ではもちろんどの教科書も申し分ないのですが、学習内容の活用に力を入れていると感じられるのと、着実に力がつくように問題が配置されているということ、また、割り算とか筆算の手順がわかりやすく説明されているところがいいかと思っております。

もちろん全体的に各領域がバランスよく配置されていると思っております。見た目が全体に落ちついているとは思いますが、最後のまとめの部分はもう少し目立たせた色使いのほうがいいかとも感じております。

この2者を薦めたいと思います。以上でございます。

### ○関口教育長

私は算数の選定に当たりましては、本市でも習熟度別の授業を行っておりますし、これからも

重視させていく方向になっております。それに対応できる教科書ということと、算数というのは学習した内容の活用力の育成だと思えます。違った言い方をすると、積み上げです。そうするとやはり基礎基本の習得、定着が大切だということで、そういう手だてがされている教科書がいいと考えました。

それから、高槻委員がおっしゃるとおり、非常に懇切丁寧な記述ではありますが、色々なレベルの先生方が指導しやすいという観点から選定をしました。

6者それぞれ習熟度別の授業に対応しており、甲乙つけがたいところはあります。それぞれ特徴もありますが、習熟度別の授業、基礎基本の習得、使いやすさ、こういった観点からの東京書籍1者に絞って候補にしたいと思えます。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

皆様のご意見をいただきまして、6者とも学習指導要領に基づき、正確、かつ公正であることは、各小学校からの調査報告や審議委員会からの報告書からも明らかなことは言うまでもありません。そこで、採択する基準を私は小平市の子どもたちが学ぶに当たってより良いということを意識いたしました。

平成25年に実施された全国学力・学習状況調査の結果から、算数に関して当時6年生の小平市の児童は全国及び東京都の正答率を上回っていることから、先生方の指導力の向上と、先ほど教育長からもお話がありました少人数指導や各小学校での取組が、児童の学力の基礎基本の定着に確実につながってきているのではないかと考えます。

さらに、これらの力を活用して、課題を解決するために必要な力を育むためには、先ほど理事のご説明にもありましたが、学年間で内容の程度を少しずつ高めていくことが必要であると考えます。それには学年ごとでしっかり基礎基本の知識と技能を児童に習得させるための内容、手順、まとめと練習問題、発展問題が児童にとってわかりやすい教科書が必要になると考えます。

そういった観点から私は東京書籍と教育出版のものが適していると思えます。どちらの教科書も確かめやまとめの問題が充実しており、基礎基本の習得が図りやすいこと、そしてノートの手書き方についても、丁寧に扱われています。そして審議委員会の報告書から東京書籍ではつまずきの多い問題を意識して扱い、児童の正しい理解を促す工夫をしている点が挙げられ、教育出版では知的好奇心を育む工夫が随所に見られるとの点が挙げられております。

また4年生の下の教科書の中で小数の掛け算と割り算の単元を見たときに、筆算の仕方が、東京書籍57ページ、教育出版70ページをご覧いただくとわかりますが、小数点を考えないで、または小数点をないものとしてという一文が記載されています。他の教科書では例えば4.3掛ける2という問題であれば、4.3と2をそろえて書くことだけ示されています。確かに整数の掛け算と同じように、右にそろえて計算することには変わりはないのですが、子どもたちにしてみれば、あくまで小数の掛け算の単元なわけですので、そういうところのちょっとした表現が教

科書全体への配慮につながるのではないかと思います。以上の理由により、私は東京書籍と教育出版がいいのではと考えましたが、ただいま各委員のお話を伺いまして、東京書籍と啓林館の2者を候補に挙げるのがいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

#### ○高槻委員

6者出ていますから、教育出版も候補に挙げておいて良いと思いますが、ほかの委員はどうでしょうか。

#### ○森井委員長

高槻委員から教育出版を候補として残すとのことご意見が出ましたが、ほかの委員さんのご意見を聞かせていただけますか。

#### ○三町委員

僕もそれで構わないと思います。内容的に見ると、これとこれはよく似ている、こっちの教科書は別な立場だというような見方で1回この3者を見ていただいて、教える側を意識して選定するのか、あるいは子どもが学んでいく上で、より追求しやすいよう興味関心を持てるような教科書にするか、そういう視点で議論していただくことも必要かと思います。

#### ○森井委員長

それでは、その3者を候補として残すということによろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

#### ○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、算数につきましては、発行者名、東京書籍、図書名「新編 新しい算数」、発行者名、教育出版、図書名「小学算数」、発行者名、新興出版社啓林館、図書名「わくわく算数」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

#### ○森井委員長

その3者でまた検討を重ねていただきたいと思います。

次は、理科でございますが、冒頭に申し上げましたように、ここで休憩をとりたく存じます。では、3時45分まで休憩といたします。

午後3時27分 休憩

午後3時45分 再開

○森井委員長

それでは休憩前に引き続き、理科から協議を再開いたします。  
理科について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○高橋教育部理事

それでは理科の目標及び改訂の際のポイントについて、ご説明いたします。

理科の目標は自然に親しみ、見通しを持って観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物、現象について、実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う、でございます。

改訂の際のポイントとして2点、1つは観察実験の結果を整理し、考察する学習活動や、科学的な言葉や概念を使用して考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮する。

2つは、個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、学習の成果と、日常生活との関連を図り、自然の事物、現象について、実感を伴って理解できるようにすることです。

以上でございます。

○森井委員長

ありがとうございます。

それでは、理科の協議に入ります。理科につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい理科」、大日本図書が「新版 たのしい理科」、学校図書が「みんなと学ぶ 小学校 理科」、教育出版が「未来をひらく 小学理科」、新興出版社啓林館が「わくわく理科」となっております。

それでは皆様から、ご意見を伺いたいと思います。

○高槻委員

私自身が自然科学を研究しているものですから、その立場で発言したいと思います。

5者の教科書を見比べました。3年生では、植物の栽培や、観察、物理現象の導入的なこと、4年生になると天文や、地質的なこと、あるいは電気現象、5年生、6年生になるにつれて、理科の色々な内容が出てきます。私自身が関心を持ったのは、5年生の教科書のいくつかで人の誕生、お母さんのおなかの中のことを説明する、これは保健との連動という意味で、生物現象と人の体の中のことを一体化させるという意味でいい工夫だと思いました。

どの教科書もよく工夫してつくってありましたが、私は学校図書が一番すぐれていると思いました。まず最も印象的だったのは、表紙に著名な科学者の写真が載せてあって、デザイン的にも非常にすっきりしていたことです。こういう人たちが自然科学の中で残した実績がどういふことなのか興味を持たせる意味でも、大変に魅力的な、私たちの時代にはなかった、あか抜けたデザ

インだと思いました。

それから、この教科書では、4年生のところに人体の骨と筋肉を、すぐれた描写力を持って体の中が透けて見えるようなイラストで描かれていて、これは子どもたちは自分の体の中がこんなふうになっているのだという想像力を刺激するという意味ですぐれている部分だと思いました。

それから、これは私の独特の考え方かも知れませんが、理科も社会も覚えるべき項目が非常にたくさんありますが、どちらかというところ、社会科のほうは、現象を記述的なことから覚えていく。一方、理科は覚えるという要素もありますが、なぜそういうふうになっているのかとか、調べたことから何を読み取るか、そういう要素が必要です。自分の身の周りにある色々なことを意識を持って考えるきっかけにするという意味では、実は共通している部分があると思っています。

その意味で、学校図書の一番最後の「人と環境」を取り上げて、理科の教科書ですから、日本の自然や、それから人が環境を汚染するとか、そういう話題で理科的、自然科学的に記述してありますが、これは社会科と重なる部分があります。子どもたちは理科の勉強をした後、社会科を勉強するというように共鳴し合う部分があると思います。そういった理解を深めるという意味で、自然科学と社会科学が最後のところで重なるという、そういう工夫がしてあって、とてもいいと思いました。

次点としては啓林館もいいと思いました。ノートのようなページがあり、そこに自分が書き込んだりできるような、覚えるというよりも参加型の工夫もあり、啓林館もいいかと思います。というわけで、1番が学校図書、2番で啓林館を推薦します。

以上です。

## ○山田委員

私は学校図書と大日本図書の2者を推しております。

まず学校図書ですが、実験用具の扱い方が最後にまとめて出ており、これが振り返りにつながるところがいいと思っているのと、危険性に対する注意が非常に見やすく目立つように、わかりやすく載っているという点、また先程高槻委員からもありましたが、「人のたんじょう」という項目、また「魚のたんじょう」と切り離して配列しているところが非常にいいのではないかと感じております。

全体と見比べて、学校図書は写真が若干少なめかとも感じてはおりますが、その分説明もしっかりあるかと思っております。

高槻委員と同じ意見ですが、表紙の見た目、デザイン性が非常にすぐれていると感じております。やはり手にとって見たくなるというのがまずは非常に大事かと思っております。

また大日本図書ですが、こちらは各学年の発達段階にしっかり応じた内容になっております。単元が問題で学習したことをしっかり定着させられ、さらに活用をしっかりできる、科学的な考えを深めることができるのではないかと感じております。

あと「理科の学び方」として、「見つけよう」、「調べよう」、「まとめよう」という振り返りの部分、または学びのサイクルというところが非常に良いと感じております。

とにかくどの教科も非常に工夫が見られますが、学校図書と大日本図書のどちらも甲乙つけがたく、この2者を推したいと思っております。

以上でございます。

### ○三町委員

私も全体を見させていただいて、かなりまとめられているといいますか、課題を発見するところから始まって、追求してまとめて、さらに発展させていくということを意識されている編集だと感じました。どの教科書もそうだと、つくづく感じました。そういう意味では甲乙つけがたいと思いました。

その中で、審議会報告の中で、色々なところで出てきていたのが、発行者によって配列が違うということがかなりありました。それが子どもが理科を勉強する上でどういう影響があるのかということで見ました。

そういう意味では、まず5年生を意識的に見たのですが、最初の扉のところで、それぞれ「科学の芽を育てよう」とか、「学習の順序」とか、「学習の進め方」とか、「理科の学び方」とか、それぞれ学び方を示されており、しっかりできていると感じたところです。

その中で、私もこの審議会の報告書にもありましたが、大日本図書の説明がサイクル型で常に循環して追求していくということを示す意味でも子どもにとってわかりやすい表現になっていると感じました。

それから、目次の扱いが発行者によって、ページと目次がそろっているところと、目次が生命の部分だけでまとまっているけれども、ページは順番が違うというようなところがあって、これについては子どもの立場からすると、目次はやはり学ぶ順番だろうということからすると、生命でくくられていてもわからない部分があるように感じました。そういった工夫からしても、大日本が学習していく上でわかりやすい形になっていると思ったところです。

5者のうちの4者くらいは単元の配列がページの順番になっていましたが、その中で大日本が色をはっきり分けて、ここから次は飛んでここだということがよくわかるような配列になっていると思いました。

それから、大日本で良いと思ったのは5年生の扉のページに、5年生で学ぶことを簡単に身近な文章で表現しているところです。ぱっと開けてみたところに、「わたしたちの地球では、何億年も昔から…」という、5年生では命がつながれている仕組みや地球上で起こっている様々な変化について学びますと。さらっと済ましていますが、5年生でこんなことを勉強するということをはっきり書かれているわかりやすい形になっていると思いました。

それから、単元配列のところで、生命に関する部分がまとまってずっと「植物の発芽」、「植物の成長」、「メダカのたんじょう」、「人のたんじょう」、そして「植物の実や種子のでき方」という流れで、一気にいっているところと、途中で「台風の接近」とかが入っているのですが、扱い方でトピック的に台風の時期に扱うとか、そういう意味も含まれているとすると、そんなに極端に飛び過ぎているという印象はないように思いました。

そういうことで見てみますと、単元配列からしても自然かということで、大日本図書と、それから学校図書を挙げます。順番をつけるとしたら大日本、学校図書になります。

それから、出ていましたが、表紙はやはり学校図書は非常に理科という感じがするという印象を持っています。

私からは以上です。

### ○関口教育長

理科の選定に当たりましては、やはり観察や実験を通して解決する学習が基本ということで、問題解決型の学習構成がされている教科書、それから観察・実験に関して、記述が丁寧に行われているということ、それから実験結果からわかったことをノートにまとめる指導が丁寧な教科書、こういった観点から見させていただきました。

その中で、候補として2者ありますが、1者は東京書籍であります。これも課題解決型の学習構成になっており、予想や仮説を持って、観察・実験の方法などを考えながら学習する構成になっています。また、ノートへの記録とか、記述の方法の指導が丁寧かということと、めだかの写真を初め、写真が多く鮮明に使われているという点があります。

それからもう1者が大日本図書でありまして、こちらも生活体験などをもとに予想や仮説を持って観察・実験を行うという問題解決型の学習構成であるということ、特徴的なのは植物とか、昆虫の成長過程などの写真が非常に読み取りやすいと思いました。当然実験に関する器具の取り扱いも配慮されておりますので、私はこの2者を候補に挙げたいと思います。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

理科につきましては、私の意見としては学校図書と大日本図書のものの方がいいと感じました。

まず学校図書ですが、理科という科目にとって大切な観察・実験について丁寧に扱われている点が良いと思います。発行者から出ております教科書の編集趣意書の中で、問題解決の学習の流れと、ポイントが一目でわかることや、器具の使い方等の基本操作技能の定着、そして何より観察、実験における安全面への配慮を徹底しているとの記述どおり、危険マークと赤字により、強調してあるところが児童はもちろん、指導してくださる先生方にも共通理解が図れるのではないかと感じました。

大日本図書につきましては、こちらも趣意書によりますと、問題解決能力の育成を図ることができる教科書であるとのことで、児童が見通しを持って問題を解決できる工夫が巻頭の「理科の学び方」で示されており、児童みずからが学習の流れを意識できるようになっている点、また、そして5者の中でも最も軽量であるということも重視しました。

小学校における理科の専科教員ですが、小平市内19校のうち4校に配置されていると伺っております。多くの小学校で担任の先生が理科を教えることになるため、実験などは指導者にとっ

てもわかりやすく、より安全面での配慮が必要になると考え、その2者を候補として選びました。

ただいま皆様のご意見から5者全部出そろったのですが、次回の定例会に向けてということで、これから5者をまた検討し直すというのも大変なのではないかと思しますので、今ご意見をいただいた中で、学校図書と大日本図書の2者に絞るといふのはいかがでしょうか。

#### ○山田委員

水を差すようで申しわけございません。理科は高槻委員の専門分野のところでございまして、高槻委員から啓林館というお話もありました。やはり専門のご意見というものも生かして、我々も見直してもいいかという意見でございますが、どうでしょうか。

#### ○森井委員長

では、今山田委員から啓林館の教科書も検討の材料として残すべきではないかというご意見が出ましたが、その3者ということでいかがでしょうか。

#### ○高槻委員

ありがたいことなのですが、私が啓林館で挙げたのは、子どもがノートを書いたりするための工夫がいいという程度で、内容についてはそれほど強い思いではありません。意見分布で言うと、学校図書が4人ですよね。大日本も4人で、あとは1、1ですよね。これが3とか2だったらまた少し違うのですが、私としてはこの場合はそれほど固執しないつもりです。

だから、推薦を強くはしなくても結構です。

#### ○森井委員長

5者とも本当にすばらしい教科書なので、決めがたいところですね。

#### ○関口教育長

私も唯一の東京書籍を候補として挙げさせていただいたのですが、最初にお話ししたとおり、3つなり4つなりの観点で選んでいます。したがって、大日本図書も東京書籍もどちらかというのと似通った観点で選んでいますので、どちらかが1者を候補に入れるということで、ある程度絞って、選定していてもいいと思います。

#### ○森井委員長

では、委員の皆様からご意見をいただきましたことを総合いたしまして、大日本図書と学校図書の2者を候補として残すということで、よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様のご意見から、理科につきましては、発行者名、大日本図書、図書名「新版 たのしい理科」、発行者名、学校図書、図書名「みんなと学ぶ 小学校 理科」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

### ○森井委員長

では次に、生活に移ります。

生活について、事務局よりご説明お願いいたします。

### ○高橋教育部理事

それでは、生活の目標及び改訂の際のポイントについて、ご説明いたします。

生活の目標は、具体的な活動や、体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や、自分の生活について考えさせるとともに、その過程において、生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うでございます。

改訂の際のポイントとして4点、1つは人や社会、自然とかかわる活動を充実し、自分自身についての理解などを深めること。

2つに、活動や体験を一層充実させるとともに、科学的な見方、考え方の基礎を養うために、自然の不思議さや、おもしろさを実感する学習活動を取り入れること。

3つに、言語力の育成の観点から、身近な人々と伝え合う活動を行い、進んで交流する内容、事項を新設すること。

最後に安全教育や自然のすばらしさ、生命の尊さを実感する学習活動を充実することです。

以上でございます。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、生活の協議に入ります。生活につきましても、発行者7者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい生活」、大日本図書が「新版 たのしい せいかつ」、学校図書が「みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ」、教育出版が「せいかつ」、光村図書出版が「せいかつ」、新興出版社啓林館が「わくわく せいかつ、せいかつ たんけんブック、いきいき せいかつ」、日本文教出版が「わたしとせいかつ」となっております。

それでは、委員の皆様方のご意見を伺いたいと思います。

### ○高槻委員

これは科目としては、自分の身の周りの具体的な体験の中から、のちの科学的な姿勢などを学ぶものだろうと考えながら拝見しました。

私が一番好感を持ったのは、教育出版です。これは身近な話題を取り上げながら、春・夏・秋・冬と、それぞれの季節で出会うものを取り上げて、そこで考えさせるようにしています。あ

るものは植物の芽生えとか葉っぱの展開を観察とか、夏休みまでにこういうものを見るとか、そういうことを学ぶ工夫にとっても好感をもちました。

それから、2番目としては、学校図書がいいと思いました。これは全体になじみやすい。1年生、2年生が楽しく勉強できるような工夫が随所にあって、審議委員会のコメントにもありますが、写真が大きくて、具体的な資料がよく選ばれて、たくさん載っています。ですから、先生はこういうのを利用しながら子どもに関心をもたせることで、導入がしやすいだろうと思いました。それで、自然科学的な関心を育てていくということに、有効に、有益に使える教科書かと思いました。

今、高橋理事からコミュニケーションや、人との交流ということがありましたが、そのこのころに関してはあまり丁寧に見られなかったので、いくつかが選ばれるという段階になって、もう一度そういう視点で、見直しをしようと思いました。

結論を言うと、1番が教育出版、2番が学校図書ということで推したいと思います。

以上です。

### ○山田委員

全部で7者ということで、どれも創意工夫を感じ、甲乙つけがたいと感じております。生活という分野は、身の周りの体験を生かしていくという部分で、私は2者に絞り込みました。東京書籍と教育出版でございます。

まず東京書籍でございますが、「ほんとうのおおきさずかん」ということで、草花が実物大で掲載されておりまして、色や形、大きさを実物大で比べられるようになっていところが、児童にとっていいと思っております。また、児童が非常に興味を持って、意欲的に活動ができるような紹介や工夫が随所に見られるとも感じております。

また、四季の変化に気づくような構成の工夫も感じますし、例えば教師の目線でいくと、指導の仕方というのも示されておりまして、教師にとっても非常に使いやすい教科書になっているだろうと感じております。

また、続きまして教育出版ですが、こちらは先ほど高槻委員からもありましたように、特に四季に沿っているという部分と、探検を発展的に扱っている部分に、非常に好感が持てます。

そして、巻末にあります「ぐんぐんポケット」は言語活動ということで、校外学習など、スキルを習得する上で役に立つ内容であると感じます。また、ほかの教科書では点字など、本当に工夫がなされていて、甲乙つけがたいのですが、一応この2者で絞り込みをさせていただきました。

以上でございます。

### ○三町委員

東京都の調査報告書も参考にさせていただきまして、やはり子どもの安全に関わる内容の記述がどうなのかと思いましたが、東京書籍が一番多かったです。大事なことなので視点として入れました。

それから、生活科の教科書ですから、基本的に子どもたちが見て、どんな活動をするだろう、そして何かこういうことをやってみたいと、わくわくするような絵や写真が必要だろうということで見たときに、絵と写真のバランスがいいと感じたのは東京書籍でした。

それから、おまけじゃないですが、「ポケットずかん」など色々あり、これは東京書籍だけじゃありませんが、そういう工夫も良いと感じました。それからやはり点字、あるいは手話が書かれているというところで、自分としては東京書籍と、特徴的なところで、点字手話を取り扱っている日文を候補として挙げたいと思います。

### ○関口教育長

7者の教科書を見させていただきましたが、どの教科書も児童の気づきへの誘導を初めとして、発展的な内容や安全配慮などを重視した紙面構成がなされていると思いました。そういった中でも児童の気づきへの誘導という点で絞って見させていただきました。

そういった中では東京書籍が写真や挿し絵、色遣いなども含めて、児童が興味・関心を沸きやすく、随所に工夫されていると思いました。

そのほかにも候補を挙げようと思えばありましたが、7者から候補を挙げるとなると、多くなってしまいますので、あえて児童の気づきへの誘導がすぐれている東京書籍の1者に絞りたいと思います。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございます。

生活については7者ということで、絞り込みが皆さん大変だったと思いますが、私は生活については児童の体験活動を通した気づきを大切にする指導が求められていると思います。また、低学年が使用する点、社会や理科など、ほかの教科への関連という点からも大変重要な科目の一つであると考えます。

その中で、東京書籍は安全や防災に関する内容を取り上げていること、季節感のある構成であること、児童の表情豊かな写真が多く、児童が興味や関心の持てる紙面構成になっていること、児童の気づきを大切にし、児童が意欲的に活動できるような工夫があること、また、巻末の「べんりてちょう」では、道具の使い方や発表の仕方の習得に役立つと考えました。

教育出版はまず、イラストや写真など、優しい色合いで親しみやすいという点や、図書館で実施したアンケートでもアサガオの観察カードが大きくて見やすいとのご意見がございました点から、児童にとっても見てわかる教科書であると考えました。巻末の「ぐんぐんポケット」には日常生活に必要なスキルがまとめられていて、非常に役立つ内容となっており、また他教科へ関連させて学習できるような工夫もあると考えましたことから、私も東京書籍と教育出版のものがいいと感じました。

ただいまほかの委員から出たご意見ですと、教育出版、東京書籍、それと学校図書、日本文教

出版の4者というところですが、7者ですので、4者を残しますか。

### ○三町委員

森井委員長や関口教育長がされている話と全く同じで、子どもが一定の活動の中から自分で気づくという視点で見たときに、写真のバランスが良いという意味で東京書籍を挙げました。

日文については、ほかの教科書会社と劣るとか劣らないというよりも同じような感じで点字があつて、手話があるということですから、両方検討していただくというよりは、私の基本的な見方としては東京書籍なので、次回の検討の対象から外していただいても結構だと思っています。

### ○森井委員長

三町委員からご意見が出ましたが、学校図書をお薦めになられている高槻委員はいかがでしょうか。

### ○高槻委員

子どもが具体的に自分の身の周りの生活の中で興味を持てるようなことを取り上げてあったことと、写真が大きくて見やすいというくらいなのですが、ただ、これは小学校に入りたての子どもたちの教科書なので、ほかの高学年の理科のように、各者の違いがあまりはっきり言えないところがあります。だから、ぜひということではないですが、入れてもらえたら、それはそれでありがたいという感じです。

### ○森井委員長

では、東京書籍、教育出版、それと学校図書の3者を候補として残すということによろしいですか。

それでは、委員の皆様のご意見から、生活につきましては、発行者名、東京書籍、図書名「新編 新しい生活」、発行者名、学校図書、図書名「みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ」、発行者名、教育出版、図書名「せいかつ」の3者を候補として残すことが妥当だと存じますが、いかがでしょうか。

ー了解の意思表示ありー

### ○森井委員長

では次に、音楽に移ります。

音楽について、事務局より説明をお願いいたします。

### ○高橋教育部理事

それでは、音楽の目標及び改訂の際のポイントについてご説明いたします。

音楽の目標は表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と、音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う、でございます。

改訂の際のポイントとして2点、1つは表現活動及び鑑賞活動において、音楽を特徴づけている要素や、音楽の仕組みを聞き取り、それらのおもしろさや美しさを感じとることを重視すること。

2つに、鑑賞において、第3学年から和楽器を含めた我が国の音楽の指導を充実するとともに、楽曲を聴いて、創造したことや感じ取ったことを言葉で表す場面を設けることなどです。

以上でございます。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、音楽の協議に入ります。音楽につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「小学音楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社が「小学生の音楽」となっております。

それでは皆様方から、ご意見を伺いたいと思います。

### ○山田委員

私は音楽が専門分野でございますので、まず私から、こちらの2者について意見を出させていただきます。

今、高橋教育部理事からご説明があったとおり、どちらの教科書も発達段階に即した内容になっていると思っております。また、例えば国語は読み物が重要であるのと同じく、音楽はどんな音楽、どんな曲が載っているかが重要であると思っておりますが、その観点で言うと、どちらの教科書も申し分ない選曲になっていると感じております。また、後世に残し伝えていくべき日本の童謡や唱歌もしっかりと適度に取り入れ、両者とも良いと思えました。

ただ、教育出版のほうでは、4年生から6年生まで人物の紹介がありまして、例えばバイオリニストの五嶋みどりさん、そして盲目のピアニストの辻井伸行さんなど、そういった人物の紹介と、またご本人からの児童へのメッセージを載せるなど、人物を取り上げて興味をもたせる工夫がありました。

私は音楽を聞くとき、最終的にはその人物に非常に興味を持ったり、好きになったりすることから、こういった人物を紹介する取組はとても良いと感じます。

また、どちらの教科書も巻末に国歌、君が代が掲載されている点もとても良いと思っております。特に教育出版では、君が代を見開きで扱っておりまして、かつ歌詞の大意や国歌のあるべき姿というものを文章としてしっかり載せてあり、こちらもとても共感が持てるものでした。

以上のことから、私は教育出版を推したいと思えました。

以上でございます。

### ○三町委員

私も、2者ですので、比較して見させていただきました。

教育芸術社は目次を開くと、学習内容が、いわゆる学習目標になっていまして、何の活動をするのか、あるいは何を学ぶのかということがわかりやすい表現になっていると感じました。

それから内容的には山田委員がおっしゃっていた部分と同じですが、両者ともバランスよく配置されているように受けとめているところです。甲乙つけがたいですが、説明は教育出版のほうがいいかと感じました。

各学年で指導するものとする、となっている国歌は両方ともきちんと扱われてはいます。その中でやはり今山田委員から話がありましたように、国歌については細石の写真も含めて、解説が大変しっかり書かれておりますので、私は教育出版ということで考えました。

### ○高槻委員

音楽は専門外で、根拠を持ってこっちというほどの強いものはないのですが、辻井伸行さんは大好きなので、辻井さんの、ハンディキャップを克服しすばらしい演奏をされるということが書いてあり好感を持ちました。それから個人的に「翼をください」は大好きだし、その後の「朧月夜」も大好きでして、この開いて3ページになるところの、この景色もとっても気に入りました。選ぶ根拠というのはそれほどないのですが、自分の好きな音楽のポイントが、教育出版のほうに多く盛り込まれていたということで、教育出版のほうがいいと思います。

以上です。

### ○関口教育長

これまで各委員さんがおっしゃっていたことと重複するかもしれませんが、教育芸術社のほうは日本の伝統や文化を重視した選曲である一方、外国の曲が少ないと思います。

また、教育出版のほうは先ほど高槻委員がおっしゃったとおり、大きな写真で紹介していただき、曲のイメージがつかみやすいだろうと感じました。あと、国歌の説明がされていて、正しい理解ができるというのと、外国の曲も扱っていて、幅広いジャンルから選曲がされていると考えました。

したがって、教育出版を候補として挙げたいと思います。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

私も2者とも大変すばらしい教科書で、どちらも児童の興味関心をひく教材が多く、また工夫がこらされており、正直決めかねているところではございますが、そこで東京都教育委員会の調査、研究資料から示されている数値的なものと、審議委員会、そして各小学校から提出された調査報告書を検討材料として重視させていただきました。

まず、教科書に掲載されている教材数、曲数や資料の数について、23項目が挙げられておりますが、そのうち16項目で教育出版の教科書が多く扱っているという報告があります。また、先ほど理事からご説明がありました和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽の曲数と資料数はこちらも8項目中5項目で教育出版が多いという報告がございます。ただ、扱う資料が多くなるということで、教材自体が多少重くなったり、情報が多過ぎるというご意見もございました。

また鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入が丁寧であるとのご意見を、小学校19校中8校で挙げられている点や、鑑賞活動で教科書に直接気づいたことを書き込めるということが5年生の教科書の45ページに載っておりますが、それらは感性を育てるとともに、言葉で表す場面を設けることにつながるというような工夫もされていると感じられます。

また、教育芸術社は色合いを含めて全体的に落ちついた仕上がりで、児童の発達段階に応じた相応の分量であるとのご意見が審議委員会からも出されていますが、最終的な判断といたしましては、山田委員はじめ、各委員からお話に出ておりましたし、図書館でのアンケートにも挙げられておりましたが、国歌、君が代の取扱いについて、1年生の教科書から楽譜、歌詞そして歌詞の大意が載せられており、より大切に扱われている教育出版のものが良いのではないかと私も思います。

それでは、委員の皆様のご意見が一致したということで、音楽につきましては、発行者名、教育出版、図書名「小学音楽 音楽のおくりもの」といたしたいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

### ○森井委員長

では次に、図画工作に移ります。

図画工作について、事務局よりご説明お願いいたします。

### ○高橋教育部理事

それでは、図画工作の目標及び改訂の際のポイントについて、ご説明をいたします。

図画工作の目標は表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う、でございます。

改訂の際のポイントとして2点、1つは今回目標に感性を働かせながら、が追加され、その子どもの持つ感じ方や、ものの見方、直感的な捉え方を自由に発揮することが、作り出す喜びにつながるということが強調されております。

2つに、表現や鑑賞の活動を通して、発想や構想を豊かにし、創造的な技能などを働かせながら、資質や能力を児童が培っていくことを意識し、指導していくということです。

以上でございます。

## ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、図画工作の協議に入ります。図画工作につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、開隆堂出版が「図画工作」、日本文教出版が「図画工作」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。

## ○山田委員

美大を出たわけじゃないので専門ということではないのですが、ただ、ふだん総合芸術のオペラの演出もやらせてもらっているので、非常に美術に関わりが多いということで私から発言させていただきたいと思います。

こちら図画工作は2者ございまして、どちらの教科書もそれぞれに創意工夫が感じられました。私個人としては、図工は美術という観点で、とても幅の広いものと思っております、例えば今、身の周りにあるものの内、自然のもの以外はすべて人の手によって作られたものだと思います。そのように美術は本当に多岐にわたっていると思います。

その中で両者を見比べますと、両者とも写真や絵をふんだんに用いた教科書となっており、やはり手で創作したものであふれかえております。これを見た児童はきっと興味・関心を持ち、創作意欲に結びつくものであると感じることができます。

しかし、この教科書自身が、美術品もしくは作品集として、例えば一生手元に置いておきたくなるようなものに盛り詰められたならば、より児童が関心を持てるものではないかと感じますが、正直どちらのどのページも、レイアウトなどの面で、若干絵や写真が多く、ごちゃごちゃ感は否めないというのが、私の第一印象でございます。

また児童の作品を取り上げているという点では、日本文教出版のほうが多めに取り上げているように思います。児童が同年代の作品を見ることで、刺激を受け、興味を持つことになりますので、非常にいいことだと思います。私自身も絵を描くとか、何か物を創作するのは小さいころから好きでしたが、中学校のときに同級生の作品に非常に度肝を抜かれたことがありまして、そういった刺激を受けたのと同時に、この道は彼みたいな人間が進むべき道なんだと、人生の選択肢から外したという思い出があったりもしました。

話がそれましたが、現段階で私の見解では実のところ両者ともほぼ同等であるということで、決めかねている段階でございます。皆様のご意見をよろしくお願いいたします。

以上です。

## ○高槻委員

私は動物学をやっているのですが、大学で学生に動物を正確にスケッチする実習をやらせています。これはとても大事なことです。今、高橋理事のほうから説明があった、創作性、クリエイティブなものを進めるということは、正確に写すというよりも、自分の内側にあるものを表現するとい

う要素が強いと思います。確かに、両方の教科書がそういうふうにできていて、ほとんどが子どもの作品です。しかし、私は美術についての考え方が少し違っていて、正確に物を写すこと、あるいは美術で伝統的に行われているように、古典的なものの習作、いわゆるコピーの技術をしっかりつけるということも一方で非常に重要だと思っています。

そういう意味からすると、子どもたちの作品だけしか取り上げていないという教科書が多かったのは残念でした。その観点から言うと、日文のほうでは5年生、6年生で、ゴッホなど古典的な印象派の絵などが紹介されていて、開隆堂のほうもゼロはないのですが、5年生、6年生に富嶽三十六景などいくつかありますが、やはり少ない。そういう意味では正確に写す、あるいは伝統的な傑作を子どもたちのころによく見るという側面からすると、日文のほうがいいと思いました。

以上です。

### ○三町委員

2者見させていただいて、まず印象として、教科書の編集方針の違いを少し感じたところです。開隆堂のほうが鑑賞、あるいは作品をつくるというところでもバランスよくできていると思いました。

ただ、そこで違うのが、日文のほうは、それぞれの学習に関して、観点別の学習状況の評価と関連させたような学習の目当てが全題材にはっきり書かれているということです。それで、子どもの活動をかなり意識して編集されていると感じました。例えば子どもの鑑賞部分でも子どもが作成して自分の思いを書いています、それがたくさんあり、色々な思いがあることを逆に学ぶことができます。子どもがその教科書を見て学べるという立場でつくられているという部分での差を強く感じたところです。

最初にお話ししたように、私はできるだけ子どもが手にして、学ぶときの立場で見たいのですが、そういう目からすると、今回は日文で、子ども自身が教科書を見ながら自分の思いを深めていく、感性を育てていく、そういう教育活動が展開されたいと思っています。

### ○関口教育長

どちらも児童の創作意欲を高めやすくする紙面構成がされていると思います。図画工作ですので、座学と実技という2つを考えるとやはり実技のほうにウエイトが大きいのだろうと考えます。そうしますと、児童の学習の立場に立って教科書を見てみますと、日本文教出版のほうは授業の流れがイメージしやすく、児童がわかりやすいような紙面構成がされていると感じます。

それと、児童の作品とか、授業風景での子どもの写真が生き生きとして、様子が伝わってきます。非常に創作意欲をかき立てるような紙面構成になっていますので、私は日本文教出版を候補としたいと思います。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

2者の教科書を開いてみたときの第一印象は日本文教出版のものが色合いが目にはやさしく見やすいと感じました。また各題材に学習の目当てが示されている点、「きをつけよう」「かたづけ」が、必要の応じて示され、活動の際に特に注意を払うことや、安全面で配慮を要することが児童にとってもわかりやすいという点がすぐれていると感じました。

作品は各委員さんもおっしゃったように、実際に児童がつくっている様子が多く、作品づくりのポイントやヒントになる児童の言葉が掲載されており、児童が感性を働かせながら、つくり出す喜びを味わうための工夫がなされていると感じました。

どの学年にも「教科書美術館」、「図画工作の広がり」、「ぞうけいのもり」、そして「使ってみよう 材料と用具」が示されていますが、特に5年生、6年生の下巻では「中学校へ向かって」として、中学生の作品を紹介することで、小・中連携を意識させるページや、インターネットを活用するための注意事項を載せるなどの配慮、そして鑑賞を通して身につける力を意識させる工夫も盛り込まれているということなどからも、児童の発達に合わせた構成になっていると感じました。

以上のことから、私は日本文教出版の教科書を子どもたちに使ってほしいという感想を持ちましたが、山田委員がまだ2者で検討しているというお話でした。今ほかの委員さんから日本文教出版がいいのではないかというご意見をいただきましたが、どうでしょうか。

#### ○山田委員

皆様のご意見に沿っていきたいと思います。

#### ○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見を総合いたしまして、図画工作につきましては、発行者名、日本文教出版、図書名「図画工作」を議案候補といたしたいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

#### ○森井委員長

では次に、家庭に移ります。

家庭について、事務局よりご説明をお願いいたします。

#### ○高橋教育部理事

それでは家庭の目標及び改訂の際のポイントについてご説明をいたします。

家庭の目標は、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的、基本的な知識及び技能を身につけるとともに、家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる、でございます。

改訂の際のポイントとして3点、1つは家族と家庭に関する教育を一層充実させるため、先ほども申し上げた目標に家庭生活を大切にする心情が盛り込まれ、自分の成長と家族についての内容を新設したことでございます。

2つに、持続可能な社会の構築など、社会の変化に対して主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点を実践的に学ぶようにしたことでございます。具体的には、食事の役割や、栄養、調理に関する内容といった食育に関する内容や、また金銭の使い方や物の選び方といった消費者教育に関する内容。さらに環境に配慮したものの活用といった環境教育に関する内容の指導も重視されております。

3つに言語活動の視点で衣食住など、生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解したり、生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて、生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させることでございます。

以上でございます。

#### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、家庭の協議に入ります。家庭につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい家庭」、開隆堂出版が「小学校わたしたちの家庭科」となっております。

それでは委員の皆様から、ご意見を伺いたいと思います。

#### ○三町委員

2者ということで、やはり子どもにとって使いやすいか、あるいはわかりやすいかという視点で見ていきました。

まず教科書の左ページを見ると、家庭科の2年間でどんなことを学ぶのかという見通しが立てやすい書き方になっているという点では、開隆堂のほうがすぐれているという印象をもちました。

それから、安全に関するところについても、表現、記述のところで見ると、やはり開隆堂という印象です。

家庭科ですので、実技的などの関係で絵や写真があるわけですが、これについてはどちらもかなり丁寧に色々な形で書いてありました。

それから小・中のつながりは、両方ともきちんと書いてありました。ただ、開隆堂のほうはやや具体的に書かれているような印象があります。情報量としては、東京書籍のほうが多いので、資料集的な要素があるようにも感じたところです。

そして、実は私は左利きなのですが、東京書籍の場合は、今までの経験上、左利きにとってわかりやすい手引きというのは、なかなかありませんでした。そういう意味では両者とも左利きへの配慮がありまして、例えば物を切るときの絵や写真がありますが、東京書籍のほうはかなり大きな写真で、包丁の切り方、包丁での刻み方が右手と左手が入っています。それから針での縫い

方も右手の縫い方と左手の縫い方があるということで、そういう意味では特徴的だと思いました。

ですから、実は非常に甲乙つけがたいところですが、トータル的なバランスで見ると、開隆堂を推したいと思っています。

### ○高槻委員

家庭科の教科書を見比べる中で、小学生が勉強するということがどういうことかと考えてしまいました。知識を増やす、考える力をつける、感性を伸ばす、あるいは健康に育つとか、成長期の子どもがそういう色々なことを学ぶという中で、家庭科の教科書には、そういうことはあまり書いてなくて、例えば料理をつくるマニュアルという要素が一番強い科目かと思いました。

そういう目で見たとときに、本当に甲乙つけがたくて、先ほど来の私の発言と矛盾しますが、マニュアルとしては情報が多いほうがいいので、やや東京書籍のほうがいいかと思いました。

### ○山田委員

私も本当に甲乙つけがたい状況でございます。開隆堂出版のほうですが、安全の部分のトピックスが多いという意見が審議委員会から出されておまして、確かにそうでした。興味関心という部分では、どちらも児童の学習意欲を高めることができるものになっていると思います。

ただ、私も左利きでして、先ほどご意見があったとおり、どちらにも左利き用の記述がありますが、やや開隆堂のほうがそういった点ではいいと感じました。

また、高槻委員のご意見のハウツー本というところですが、自身を振り返りましても、家庭科の教科書はじっくり読むというよりは、やはり何かをつくる際の順番がしっかり載っている、先生が見て説明をしながら、みんなはそのとおりにやっていくようなイメージがあります。そういったハウツー本としても、どちらも本当に甲乙つけがたい。

ただ、左利きというところでは開隆堂に若干分があると感じております。

### ○関口教育長

こちらのほうも2者ですので、自分なりに視点を絞ってみました。家庭科というのは座学と実習のバランスでいうと、座学も実習に移る前に必要ですが、やや実習のウエイトが重いと考えます。

小学生ですから、児童に学習の流れがわかりやすいのが良いと考えました。そういった観点から見てみますと、東京書籍はすべての問題解決が3つのステップで統一的に構成されています。それは児童にとって良いと思いました。

また、開隆堂で良いと思ったのは、作業手順が左から右に統一されているという点で、文章も無駄なことが書いてなくて簡潔で、読みやすいと感じました。

本当にわずかな差ではありますが、私がどちらかを選ぶというと、開隆堂出版のほうを候補として選びたいと思います。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

ただいま3名の委員さんから、開隆堂出版というご意見が出ました。私といたしましては、家庭科はやはり見てわかりやすいものが良いのではという考えから、ご飯の炊き方や野菜のゆで方など、写真でしっかり示してあるという点で開隆堂がいいと感じました。

東京書籍の場合はイラストで野菜のゆで方が示してありましたが、実物を写真で見たほうが児童にとってわかりやすい、また、指導してくださる先生としても、家庭科は担任の先生が教えてくださることが多いと思いますので、見てわかる教科書、子どもたちが家に帰って見直してもわかりやすいという点からも、開隆堂出版の教科書がいいと感じております。

また、安全面ということほどどちらも配慮がされていますが、例えば、まち針のとめ方の順番など、きめ細やかな記述のあり、初めて取り組む児童にとっていい点から、開隆堂出版の教科書がより良いと感じました。

2者とも候補として出ていますが、いかがでしょうか。

### ○高槻委員

先ほども言いましたように僅差ですので、これは選ぶのであれば、やはり多くの委員が薦められている開隆堂でいいと私も思います。

### ○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、家庭につきましては、発行者名、開隆堂出版、図書名「小学校 わたしたちの家庭科」を議案候補といたしたいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

### ○森井委員長

では次に、保健に移ります。

保健について、事務局からご説明をお願いいたします。

### ○高橋教育部理事

それでは保健領域が含まれる体育の目標、及び保健領域の改訂の際のポイントについて、ご説明いたします。

体育の目標は心と体を一体として捉え、適切な運動の経験と、健康、安全について理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てるでございます。

改訂の際のポイントとして2点、1つは保健の内容のうち、食事、運動、休養及び睡眠につい

ては、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結びつくよう配慮するとともに、保健を除く第三学年以上の各領域及び学校給食に関する指導においても関連した指導を行うよう配慮することがあります。

2つに、言語活動の視点から、指導に当たっては知識を活用する学習活動を取り入れるなど、指導の工夫を行うことが言われています。

以上でございます。

#### ○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、保健の協議に入ります。保健につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい保健」、大日本図書が「新版 たのしい保健」、文教社が「わたしたちの保健」、光文書院が「新版 小学保健」、学研教育みらいが「新・みんなの保健」となっております。

それでは皆様からご意見を伺いたいと思います。

#### ○三町委員

保健ですが5者ということで、基本的に比較しながら見ていきましたが、まず特に5年生、6年生に関しては、都の調査結果等も参考にさせていただく中で、いわゆる生活の危険や安全に関する内容、不安や悩みに関する内容、あるいは発展的な課題の扱いの内容とか、そういうところのデータ的に見ると学研が圧倒的に扱いが多かったです。

もちろんほかの教科書会社でも扱いがしっかりしているところも多いわけですが、トータルとしてバランスがいいのが学研だと感じました。

それから、本文が自分で読んでみて読みやすいのと、少し字が小さい発行者があるということであると、学研や東京書籍、あるいは少し字が小さいと思いましたが、読みやすい文章だった光文書院が良いと思いました。

特に3年生、4年生の体の変化と発育というところで、説明や体の変化についての絵や写真の扱いですが、そういうところのバランスを配慮しているのが学研だろうと感じました。子どもの体の成長についても体育着姿であったり、説明がきちんとされております。

特に悩みに関しても、どうやって対応すればいいかというところも記されておまして、トータルバランスとして学研が良いと私は感じました。

以上です。

#### ○山田委員

5者で見比べまして、例えばインターネットの部分や防災の部分は、どの教科書でも東日本大震災に触れたりとか、インターネット関連にも触れておりました。あと最近では、SNSなども取り上げる必要があるように感じます。

教科書によってはアスリートのメッセージがあるなど、それぞれ特徴があったり、全体に思春期の体の変化や悩み、成長の個人差などが具体的にしっかり書かれていたり、バランス的には本当にどれも良いと感じました。

その中で、やはり1者に絞り込むということでは、私も学研教育みらいに絞りたいと思います。

今言った防災であるとか、インターネット、SNS、思春期の体の変化や個人差、そういったバランスが非常に良いと感じて、この1者に絞り込みました。

以上でございます。

### ○高槻委員

この科目で多分ハイライトになるのは、やはり思春期の体の変化のところだと思います。それは、写真ではなかなか表現しにくいということがあって、絵にしてあると察するのですが、そのほかの情報に関してはやはり写真のほうがいいだろうと思います。その部分を絵にするがために、統一ということで、ほかの部分も絵にしているところが多かったように思います。

その中で、学研が一番写真を多用している。それから、思春期の悩みなど、かなり個人的な個人差があることにも配慮がしてあって、私も学研が一番良いと思いました。

以上です。

### ○関口教育長

私も皆さんと同じような意見で、結論としては学研教育みらいを候補としたいと思います。

防災やSNS対応、それから防犯はどれもよく工夫されてつくられています。やはり私は先ほどの高槻委員と一緒に、学研でいえば、心の健康の思春期のところは体験談が多く掲載されていて、子どもに安心感を与えるだろうと感じました。スクールカウンセラーのコメントというのは理解を深めるのに役立つと思いますし、いじめとの絡みも合って、スクールカウンセラーをより身近に感じてほしいという意味合いもありまして、私としては学研教育みらいを候補にしたいと思います。

これは要望かもしれませんが、学校での食物アレルギーというのは命にかかわりますので、非常に大切です。これをもう少しどの教科書も取り上げていただけると、ありがたいと思います。

以上です。

### ○森井委員長

ありがとうございました。

皆さん学研で意見が一致しているようですが、私もやはり学研がいいのではないかと思います。

まず教科書に書き込むスペースが多いこと、そして巻頭に「あなただけの教科書を作りましょう。」と書かれていることで、学んだことをしっかりと自分のものにすることができる工夫がなされていると思います。

先ほど来、委員さんからもご意見をいただいておりますように、4年生の「育ちゆく体とわた

し」と、5年生の「心の健康」は、なかなか相談しにくい心と体の変化に対する単元ですが、体験談を通して、児童の立場に立った対処法で丁寧に取り組まれていることで、不安や悩みを抱えたときに、誰もが経験することで、話し合ったり周りの人に相談したりするのだという、大切なことを学べるようになっていきます。また5年生、6年生の「けがの防止」では自然災害やインターネットのトラブルなどの今日的な課題にも触れられている点がすぐれていると思います。

審議委員会からの報告では、見開き2ページに1つの単元がまとまって終結しており、わかりやすいこと。また、各章末の学習のまとめでは、自己評価、活用力の確認、生活実践への活用を確認することができるという項目もあり、先生にとっても指導の助けとなる工夫が見られることから、学研の教科書がいいと私も感じました。

それでは、委員の皆様のご意見が一致しておりますことから、保健につきましては、発行者名、学研教育みらい、図書名「新・みんなの保健」を議案候補といたしたいと存じますけれども、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

(閉会宣言)

○森井委員長

では、以上で本日の協議を終了いたします。

次回8月21日において、本日の協議結果に基づきまして、種目ごとに候補を1者に絞り、それらを議案の原案といたしたいと存じます。

終わりに、次回の教育委員会定例会ですが、平成26年8月21日木曜日、午後2時から市役所6階大会議室で開催いたします。なお、参集時刻は午後1時30分といたします。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして教育委員会8月臨時会を閉会いたします。

午後5時11分 閉会